

全国 活動だより

▼北海道

★来年度に向け、合同会議

越野 義貴(HBC)

コロナ、コロナで足かけ4年、クラブの活動はおろか通常の生活すらままならぬ中で、もういい加減にして欲しいという声がかさねに高まる昨今ですが、ゴールデンウィーク明けからの規制緩和が決定したようなので、少しでも人間らしい生活に戻れることを期待したいところです。

この様な状況下で大きく動きを制限される中、前号でもお伝えした通り、昨年11月1日に「歩く会」を2年9ヶ月ぶりに開催しました。

恒例となつた札幌のミニ歴史探訪第12弾「東札幌駅貨物ヤード跡と古きメモ跡および旧小沼川を辿る」と題して、今は全く姿を変えた街並みを散策して会食という、いつもの設定でした。天気予報は最悪でしたが、自称「天下の晴れ男」の幹事(実は

筆者本人)がお天気の神様と直談判したのが功を奏してか、なんと当日お天道様が顔を見せて下さるといふ空模様になり最高のイベント・・・で終わる筈だったのですが、何ということか！ 事後にコロナ感染者が2名出てしまったという笑えないオチが付いてしまいました。でも幸い軽症で済み、じきに完治されていますのでご安心下さい。

さて、北海道の冬期間の活動は、概ねスキー、スケートとインドア・イベントに限られます。運動不足は雪かきがカバーしてくれるとはいえ、冬はある意味充電期間でもあります。

この充電期間にじっくり新年度の予定を策定するべく、1月18日に理事・監事・部会長・会員増対策チーム合同会議が開催され、併せて久々の顔合わせゆえ、各メンバーの近況報告を交えて闊達な情報交換を行いました。

席上、致し方ないこととはいえ、部会活動の縮小あるいは解散などという話題も散見される中で、新年度こそは従来通りの

活動に戻りたいという意気込みも随所に見られ、悲喜こもごもながら新たな活動計画を出し合ったところです。

物理的な要因を考慮すれば、今後は年に数十人規模で増員しなければ会が成立しなくなるのは自明で、それぞれに知恵を出し合いつつ、現状ではなんとか会員数維持を続けている状況です。

この件については全国各地の民放クラブも同じ悩みを抱えているはずで、機に応じて対策を論じ合っているのですが、これと言った決定打がないのが実情のようです。



北海道では、コロナ流行を機に会報の発行回数を年3回から4回に増やし、内容を充実させるべく新たな企画の特集も編成して会員の親睦に努めています。最大の活動の舞台であり交流の場である部会が休止状態であれば、さらに閉塞状態から脱却できないわけで、新年度こそは従来通りの活動を目指すべく意思を確認したところです。そして今年こそは総会を開催し、懇親会は食事のみとするものの、3年ぶりに元氣な顔を合わせる予定です。

